

デッチあげ弾圧粉碎したぞ！

10.21

国際反戦デー闘争が大高揚！！

安倍打倒の11.1大集会へ！

全学連・斎藤委員長のアピール

10.21国際反戦デーに集まれたすべてのみなさん！

今、本当に世界は変わりつつあります！全世界で、とりわけリーマンショック以降、世界中で貧困と戦争に対して反対の声が上がり、闘いの炎が巻き起こっています。インドでは1億5千万人のゼネストが爆発し、トルコではシリア・イラクを中心とした空爆の中、まさに「中東が火の海」になる中で、民族対立・宗教対立を乗り越えともに闘う労働運動が生まれています。ドイツやスイス、アメリカ、…多くの国で闘いが起きている。

そして何より、日本のお隣の韓国で民主労総がパククネ政権打倒と「ひっくり返そう世の中を！」のスローガンを掲げて日米韓の軍事同盟に反対し、労働者の首切りに反対し、ゼネラルストライキに立ち上がっています。今世界の新しい流れははっきりしてきました。



そしてそれはもちろん、日本においても始まっています。全世界が戦争情勢に入らる中で、安倍政権は安保関連法の強行採決を行いました。パンドラの箱が開きました。

この何十年にもわたって引き継がれてきた戦争反対の思いが国会前に集まり歴史を変えました。それが今、本当の意味で力にならなくちゃいけない時がきている。だからこそ全学連は、その声を形にし、その形をさらに力にするために、「戦争反対のストライキが今こそ必要だ！」と訴え、国会闘争の最先頭で闘いました。まさしく戦争の時代になり、その中で私たちが闘いぬいているからこそ、今回全学連に対する本当に不当な弾圧がかけられました。しかし、この弾圧は打ち破られました。本当に偉大なことです。かつてまさしくこういう攻撃に日本の労働者階級は負け、戦争に動員されてしまった。その歴史を私たちは乗り越えた。団結すれば勝つことができることを証明した！

全学連

全日本学生自治会総連合(委員長・斎藤郁真)

03-3651-4861 mail_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp

ちは乗り越えた。団結すれば勝つことができることを証明した！

そして、この弾圧から見えることは、今この国がどれほど私たちの存在を恐れているのかということです。そもそもスパイは、摘発された時点で国家権力の敗北ではありませんか！ しかしその事件を持ち出してでも弾圧しなければならなかった。あらゆる野党が屈服し、多くの人々の怒りを選挙に流し、「だからみんなはおとなしく働いていればいい」とするあり方に対して、「本当の闘いは私たちの現場にあるんだ」と訴える私たちが一体どれほど恐怖なのかということです。

いま歴史は分岐点にあります。問われているのは私たちです。私たちが本当に多くの人たちを組織し、展望を伝え、力のある希望になることができるのか。このことをめぐる闘いが、今秋から来年に向かって始まっていきます。「10.21国際反戦デー」は本当に歴史的な日です。かつて多くの労働者・学生が立ちあがり、実際にベトナム戦争を止めた日です。今こそ私たちの本当の力を思い出しましょう。本当の力をストライキとして組織しましょう。

動労千葉はストライキに立ち上がりました。その闘いに学んで多くの労働組合が日本でストライキを始めています。労働者の団結が力強く甦り始めました。全学連もこの社会に対して確固たる希望として力を示すために、大学の中からの反戦ストライキを爆発させます。昨年、京都大学で公安警察を摘発・追放した学生は、それから



釈放を勝ちとった4名が勝利報告！

一年が経ち、戦争反対のストライキを決断しています。東北大学の学生もストライキを決断しています。むしろ今回の弾圧を通して、多くの学生が決意を固め、人生を固め、闘いに立ち上がりました。支配者は私たちの絆を破壊することによってしか支配を維持できない。そのために腐った人間を使う以外に支配を維持することができない。だからこそ必ず、社会の希望は常に闘う者の側にあります。必ず多くの人たちの展望になる。この間の闘いによってそれは示されました。

11月1日の全国労働者総決起に絶対に1万人を集めましょう！ 韓国・民主労総の仲間をはじめ、トルコ、スイス、アメリカから多くの労働者が集まります。全世界の労働者の力を示しましょう！ 人生をかけて1万人結集を実現させよう！



圧倒的注目の中、法大デモ打ち抜く！(10月21日)



【韓国】9・23ゼネスト大会

11.1 全国労働者総決起集会

11月1日(日) 正午～ 日比谷野外音楽堂

【呼びかけ】

全日建運輸連帯労働組合関西地区生コン支部／全国金属機械労働組合港合同／国鉄千葉動力車労働組合／国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動

